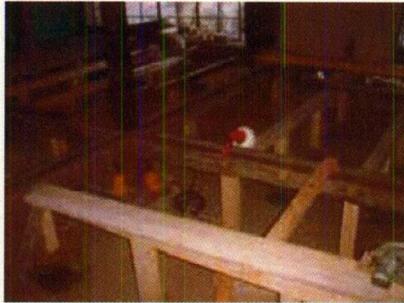


母屋①



再生工事はとにかく残せるもの、まだまだ使えるものは使おうという方針で、地元の阿知須大工組合の皆さんの総力で始めました。従って、現状の建物は解体せず、そのまま家揚げして、悪いところだけ差し替えるという、手作り工事となりました。

母屋②



差し替えた状況です。土壁の竹小舞を編んでいます。

母屋③



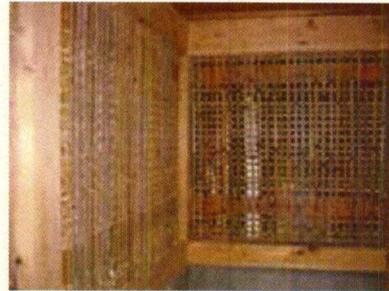
土壁も悪いところを掻き落して、新旧取り合わせた味のある改修工事となりました。

母屋④



新しく増築された事務所部分も既設の母屋に、うまくドッキングされました。

母屋⑤



土壁の上には、漆喰を手作業で仕上げています。

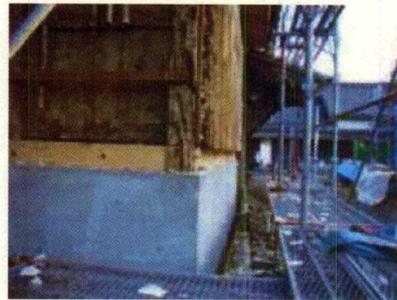
蔵①



蔵も母屋と同様に、家揚げ方式で基礎補強、そして改修工事となりました。

再生工事

蔵②



土壁、柱、梁も残せる材料はすべて活用しています。

再生工事

納屋①



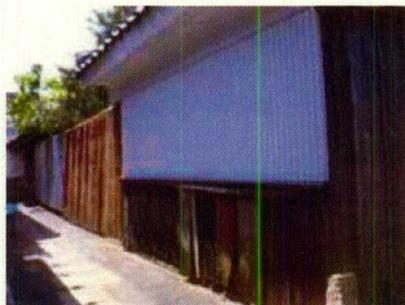
納屋も同様のやり方です。

見事に復元されました。



納屋②

門・塀など



改修前



改修後

門、塀もかつての風情を意識して復元されています。

今回の再生工事では、以下の特筆すべきことが挙げられます。

1. (1)再生工事は、すべて地元の材料と人材(職人)で実施したこと。
2. (2)伝統工法による再生工事を主体とし、材料には自然素材(土、木、しっくい、石)を使用したこと。
3. (3)工事費を抑えるため、解体工事はできる限り避け、家揚げ工法により既存材料を活

用し、悪い箇所のみ交換する工法を採用したこと。これにより、地元の棟梁はじめこの工事に関わった職人さんが自主的に材料、工法を提案され、難しい工事がスムーズに進められた。また、工事完成間近になって発生した納屋の火災では、自然素材の土が延焼防止に多大の効果を発揮し、燃えた部分を削り落とした木材も強度試験の結果、再利用が可能であることがわかり、工期延長、追加費用もかなり抑えることができた。

また、この再生工事を日々見ておられた近隣の住民から、伝統工法(白壁)によるご自宅の外壁補修の依頼があり、さらにまちなみの景観を高めることになった。